あなたの夢をかなえる建築家

建築家・富田眞二さんの仕事

小さなコートハウス

縁側のような屋外コートを三つの居室が取り囲む 機能と居心地が両立した家

「居心地のいい住まいには、機能的な側面（家族の動線を考えた間取りや、安全性・耐久性・気密性・断熱性といったもの）と、精神的な側面（造形やデザイン、芸術性など）の両方が不可欠」と富田さん。

この建物は、1階に店舗、2階に住居を配した都市型の併用住宅。外観正面であるファサードは、施主のリクエストによって徳島の藍色の「ブ「藍青色」で染め上げられた青い壁で飾られています。一方、住宅へのアプローチとなる外部階段や、玄関とランドリーの間に設けられた半屋外空間のサービスヤードには金網製スクリーン（ファインフロア・空隙率＝約50％）が使われ、開放感を保ちつつも街に対して開かずぎずの適度なプライバシーを確保。このあたりにも、機能面と精神面を両立させる富田さんの配慮がうかがえます。

また、徳島の古い建築や町並みの研究に取り組んできた富田さんは、土間や縁側など日本の住まいの良さを積極的に自身の設計に採り入れています。この家の場合、延床面積21坪の夫婦二人のためのコンパクトな住居部分は、コートをはさむかたちでリビング、畳の間、寝室の三つの居室が配置されています。コートは4畳大（2m×3・8m）と広くはありませんが、光と風を取り入れるには十分。縁側同様に四季の変化を感じさせるコートを核にして、ゆったりとした生活が組み立てられています。

住宅データ

家族構成	夫・妻
構造・工法	鉄骨造・ラーメン構造
敷地面積	241.91m²（73.17坪）
延床面積	144.57m²（43.73坪）
	1階床面積（店舗） 75.12m²（22.72坪）
	2階床面積（住宅） 69.36m²（20.98坪）
スケジュール	設計期間 2005年2月～5月
	工事期間 2005年6月～11月
設計監理	富田建築設計室
施工	アークホーム

その他の仕事

▶シルバースカイハウス
1階が事務所、2・3階が住居という、「地面に接しない住まい」のバンディルヤップが、グレーチング敷きの二層の広いデッキでカバーされている。

▶透き間の家
木造ラーメン構造（SE構法）の良さを生かした木造住宅で、34畳の大広間や木製カーテンウォールによる大開口、屋上の有効利用など、在来工法ではできにくい要素を積極的に取り入れている。

▶ふたり暮らしを楽しむ家
ふたり暮らしを楽しむための小さな住まい。二つ屋根の下には片流れの形そのままに立体的ワンルーム空間が広がっている。

建築家
富田眞二
tomita shinji
有限会社 富田建築設計室 所長

●生年月日　1948年8月22日
●星座　獅子座
●血液型　O型
●趣味　古建築や町並み探訪
●建築・仕事上のモットー
いたずらにデザインしないこと

●尊敬する建築家、建築物とその理由
巨匠の作品より、知恵や工夫によって魅力的な空間をつくり出した名もない建物の方が好きです。人物では、民家という言葉を一般用語にしたと言われる「今和次郎」。断層的な造形美に惑わされない建築観にこころ惹かれます。

●自身の作風の特徴・得意な工法など
クライアントの求めるものを優先するタイプだと思っているので作風は説明しづらい。ただ「いたずらにデザインしないこと」がモットーなので、それを作風と感じていただけるかも知れません。「得意な工法」も木造や鉄骨造など、それぞれの良さを引き出すのが設計者の役目と思っています。「好きな工法」でいえば木造です。住みやすさは勿論ですが、朽ちて味く美しさは自然素材にかなわないから。

●家づくりに対する考え方
家づくりには利便性や耐久性、安全性など機能の追求は欠かせませんが、その一方で心をいやしたり感性を育む仕掛けや工夫など、精神に語りかける要素を取り込むことも大切です。「機能性」と「精神性」の相反する要素をどう融合させるかが、居心地のよい住まいづくりには必須ではないでしょうか。

●学歴　日本大学生産工学部建築工学科卒
●職歴　永大産業（大阪）、渡辺慢デザイン事務所（東京）、森田建築設計事務所（徳島市）
●教職歴　専門学校穴吹カレッジ非常勤講師
●資格・学位等　一級建築士
●所属団体　日本建築家協会、日本建築学会、徳島県建築士会
●受賞履歴　徳島県優秀建築設計コンクール優秀賞受賞、徳島市街づくりデザイン賞優秀賞、徳島県出版文化賞「阿波の農村舞台」（共著）等